

# 渡嘉敷村 様 財政分析レポート

株式会社 諸井会計

# 会計区分

	連結対象							
	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度			
1 一般会計	○	○	○	○	○	} 普通会計	} 単体会計	} 連結会計
2 国民健康保険事業特別会計	○	○	○	○	○			
3 簡易水道事業特別会計	○	○	○	○	○			
4 下水道事業特別会計	○	○	○	○	○			
5 後期高齢者医療特別会計	○	○	○	○	○			
6 航路事業特別会計	○	○	○	○	○			
7 沖縄県市町村自治会館管理組合	○	○	○	○	○			
8 沖縄県市町村総合事務組合	○	○	○	○	○			
9 沖縄県町村交通災害共済組合	-	○	○	○	○			
10 沖縄県介護保険広域連合(一般会計)	○	○	○	○	○			
11 沖縄県介護保険広域連合(特別会計)	○	○	○	○	○			
12 沖縄県後期高齢者医療広域連合	○	○	○	○	○			
13 比謝川行政事務組合_特別会計(消防通信指令)	-	-	-	○	○			

# 新公会計財務諸表のご説明

## 普通会計 平成27年度

単位(千円)

貸借対照表		金額	負債の部	金額	
資産の部					
1.金融資産	10.1%	1,122,279	1.流動負債	8.7%	130,971
(1)資金		74,731	(1)地方債(短期)		111,930
(2)未収金		129,913	(2)賞与引当金		16,691
(3)貸付金		0	(3)その他		2,350
(4)その他債権		0	2.非流動負債	91.3%	1,372,580
(5)貸倒引当金		-219	(1)地方債		1,232,685
(6)有価証券		10,563	(2)退職給付引当金		139,895
(7)出資金		24,198	(3)その他		0
(8)基金・積立金		877,205			
(9)その他の投資		5,889			
			<b>負債合計</b>	<b>13.6%</b>	<b>1,503,551</b>
2.非金融資産	89.9%	9,944,247	純資産の部		
(1)事業用資産		3,658,335			
(2)インフラ資産		6,285,912	<b>純資産合計</b>	<b>86.4%</b>	<b>9,562,976</b>
<b>資産合計</b>	<b>100.0%</b>	<b>11,066,527</b>	<b>負債及び純資産合計</b>	<b>100.0%</b>	<b>11,066,527</b>

純資産変動計算書		金額
期首純資産残高		9,200,161
純経常行政費用		-983,425
直接資本減耗(インフラ資産)		-219,395
財源調達		1,563,850
税収		95,417
社会保険料		0
移転収入(他会計移転収入)		41
移転収入(補助金等)		1,460,262
移転収入(その他移転収入)		8,130
その他純資産の増減		1,785
<b>期末純資産残高</b>		<b>9,562,976</b>
		362,815

行政コスト計算書		金額
経常費用		1,071,834
1.人件費	32.8%	351,553
(1)議員歳費・職員給与		232,405
(2)その他		119,147
2.物件費・経費	41.1%	440,777
(1)消耗品費		36,306
(2)減価償却費(事業用資産)		158,900
(3)維持補修費		65,068
(4)その他物件費		35,594
(5)委託費		104,821
(6)その他経費		40,088
3.業務関連費用	1.5%	16,612
(1)公債費(利払分)		14,975
(2)その他の業務関連費用等		1,637
4.移転支出	24.5%	262,893
(1)他会計への移転支出		106,688
(2)補助金等移転支出		123,596
(3)社会保障関連費用等移転支出		31,351
(4)その他の移転支出		1,257
経常収益		88,409
1.業務収益		48,262
2.業務関連収益		40,147
純経常行政コスト		
(経常費用 - 経常収益)		983,425

(1)赤線  
純資産の増減を表します。  
・緑線は減った純資産  
・財源調達は入った純資産  
・その他は資産の目減り分

(2)青線  
資金の増減を表します。  
(現在の決算書と同じ)

赤青が集まって  
貸借対照表を作ります。

資金収支計算書		金額
1.経常的収支		716,367
経常的支出		933,158
経常的収入		1,649,525
2.資本的収支		-684,902
資本的支出		759,435
資本的収入		74,532
3.財務的収支		6,877
財務的支出		134,827
財務的収入		141,704
当期収支		38,341
期首資金残高		36,390
<b>期末資金残高</b>		<b>74,731</b>

※表示金額は千円単位となっており、四捨五入のため合計金額に齟齬が生じます。

## 貸借対照表

◆ 貸借対照表、村の財政状況を一目でわかるようにしたものです。

◆ 左側は、村の持つ資産で全体で 111 億円余り(住民1人当たり約 1,500 万円)  
右側はそれがどうしてできたのかを表しています。

111億円のうち、約 96 億円は明治時代以来、住民が営々とつくりあげてきた  
ものであり、残りの約 15 億円は地方債やその他の資金でできています。  
純資産比率(純資産/総資産)は、 86.4% で全国水準(70%) を上回っています。

◆ その資産の中身を見ると、資産のうちインフラ資産は、道路など、経済的取引には  
馴染まない資産なので、財政上の判断をするときは、無価値として考えるべき  
かもしれません。仮に無価値と考えて実質純資産比率を計算すると 68.5% と  
なります。

◆ 公債については 13.4 億円、住民一人当たり約 1,822 千円の借金を持っている  
ことになります。

貸借対照表					
資産の部		金額(千円)	負債の部		金額(千円)
1.金融資産	10.1%	1,122,279	1.流動負債	8.7%	130,971
(1)資金		74,731	(1)地方債(短期)		111,930
(2)未収金		129,913	(2)賞与引当金		16,691
(3)貸付金		0	(3)その他		2,350
(4)その他債権		0	2.非流動負債	91.3%	1,372,580
(5)貸倒引当金		-219	(1)地方債		1,232,685
(6)有価証券		10,563	(2)退職給付引当金		139,895
(7)出資金		24,198	(3)その他		0
(8)基金・積立金		877,205			
(9)その他の投資		5,889			
2.非金融資産	89.9%	9,944,247	<b>負債合計</b>	<b>13.6%</b>	<b>1,503,551</b>
(1)事業用資産		3,658,335	<b>純資産の部</b>		
(2)インフラ資産		6,285,912	<b>純資産合計</b>	<b>86.4%</b>	<b>9,562,976</b>
<b>資産合計</b>	<b>100.0%</b>	<b>11,066,527</b>	<b>負債及び純資産合計</b>	<b>100.0%</b>	<b>11,066,527</b>

庁舎、学校、会館など

道路、漁港など売却不能の資産

86.4%は正味資産

## 行政コスト計算書

◆ 行政コスト計算書は、企業の損益計算書にあたるもので、貸借対照表はストックの財政状態を表すものとすれば、これからの3つの財務諸表はフローの財政状態を表しています。

◆ 人にかかるコストのうち、人件費は 村 の職員給与、議員報酬、福利厚生などの他、臨時職員の給料や種々の講習会の講師謝礼も含んでいます。退職給与引当金繰入等は、退職金の支払が永年の通常の勤務に対する代価ですから、通常勤務のコストと考えて、毎年必要な額(発生した費用という)を引き当てます(蓄えておくと考えてください)。他方、実際の退職金の支払は、この引当金から支払われたと考えて、新しい費用は発生させません。今回の場合、この人件費の負担は住民1人当たり約47.6万円になります。

◆ 物にかかるコストのうち、物件費・経費は、人件費以外すべての業務費用です。「(2)減価償却費」と「(3)維持補修費」は、設備に関する費用です。減価償却費は設備が劣化してそのうち使えなくなるので、その時の更新費用を予め引き当てておこうということですが、簡単にいえば、設備の使用料と考えてください。事業用資産に関する減価償却費のみをここで計上し、インフラ資産のものは次の純資産変動計算書で直接資本減耗費用その他の減少として計上されます。「(3)維持補修費」は、設備が目的とした機能を果たしていけるように行った修繕の費用です。

◆ 公債費は、地方債の利子です。これは支出全体の 1.4% ですから、無視できるものではありません。今の金利の状態でもこれですから、経済状況が変われば大変なことになります。

◆ 移転支的コストとは、それで直接サービスを行う費用でなく村を通じていろいろなところへ移転した金額です。また、(1)は単体会計内で相殺処理しております。(2)の補助金等は住民の皆様のさまざまな仕事への補助となるものです。(3)の社会保障給付は、非常に大きな負担となっております。

◆ すべての行政コストから、直接の受益者が負担する額、使用料、手数料等を引いたものが、純粹の行政コストです。このコストは当然税金などでカバーさせねばなりません。これが次の純資産変動計算書で表されます。

行政コスト計算書		金額(千円)
経常費用		1,071,834
1.人件費	32.8%	351,553
(1)議員歳費・職員給与		232,405
(2)その他		119,147
2.物件費・経費	41.1%	440,777
(1)消耗品費		36,306
(2)減価償却費(事業用資産)		158,900
(3)維持補修費		65,068
(4)その他物件費		35,594
(5)委託費		104,821
(6)その他経費		40,088
3.業務関連費用	1.5%	16,612
(1)公債費(利払分)		14,975
(2)その他の業務関連費用等		1,637
4.移転支出	24.5%	262,893
(1)他会計への移転支出		106,688
(2)補助金等移転支出		123,596
(3)社会保障関連費等移転支出		31,351
(4)その他の移転支出		1,257
経常収益		88,409
1.業務収益		48,262
2.業務関連収益		40,147
純経常行政コスト (経常費用 - 経常収益)		983,425

狭義の行政費用

## 純資産変動計算書

- ◆ 純資産変動計算書は、財政状態のフローを純資産の変動の角度から見たものです。
- ◆ 純資産を減少させるものは、まず先程計算した「純経常行政コスト」(これは、業務費用+数々の引当金繰入額からなっています)と、インフラ資産の減価償却(老朽化による価値の目減り分)を表す「直接資本減耗」です。これら全体を(A)とします。
- ◆ 純資産の増加分は、税金や国や県からの種々の補助金です。その他寄付金や他会計からの収益金もあります。これを(B)とします。
- ◆ このどちらが多いかで、次世代へ「負担額」を先送りしたのか、「余剰額」を引き継いだのかということになります。(A)が多ければ、当然「負担額」を先送りしたのであり、(B)が多ければ、「余剰額」を引き継いだことになります。実際に使った費用と設備の劣化費、必要な引当額を当世代が払うものと考えたら、最低必要な税額の見当がつきます。
- ◆ 村の平成27年度は、差引 362,815 千円の純資産の増加になっています。

純資産変動計算書		金額(千円)
期首純資産残高		9,200,161
純経常行政費用	} (A)	-983,425
直接資本減耗(インフラ資産)		-219,395
財源調達	} (B)	1,563,850
地方税		95,417
社会保険料		0
移転収入(他会計移転収入)		41
移転収入(補助金等)		1,460,262
移転収入(その他移転収入)	8,130	
その他純資産の増減		1,785
期末純資産残高		9,562,976

この差額 **362,815 千円**が、今期次世代へ引き継いだ余剰額です。

## 資金収支計算書

- ◆これは、今までに作成してきた決算書と同じ内容です。すなわち、現金(資金)の出入りがどのようになっているかです。本年度末残高は、昨年度末残高より、38,341 千円の増加となっております。
- ◆経常的収支は、資産の形成に関係がなく直接純資産の増大・減少をもたらす資金の収支を表します。費用として処理される人件費や消耗品費のような物件費・経費の支出と、村 に入ってきた資金での収入の関係です。ですから、行政コストや純資産変動計算書では支出と考えられた資産の目減り分(減価償却費や直接資本減耗)は、お金が出て行っていないので、その分少なく、大抵プラスとなります。
- ◆しかし、その残った分は資産の目減り分を補充するに等しい資産の取得に充てられています。これが公共資産整備収支(資本的収支)のマイナス分になります。
- ◆財務的収支は、主として公債の元利償還支出と新しい公債の発行による収入の差額です。ですから、ここは大きなマイナスになった方がよいのです。

## 資金収支計算書

	金額(千円)
1.経常的収支	716,367
経常的支出	933,158
経常的収入	1,649,525
2.資本的収支	-684,902
資本的支出	759,435
資本的収入	74,532
3.財務的収支	6,877
財務的支出	134,827
財務的収入	141,704
当期収支	38,341
期首資金残高	36,390
期末資金残高	74,731

## ■ 発生主義の観点からの自治体経営分析

### ①純資産比率

86.41%

純資産比率＝純資産合計／総資産合計

資産のうち、どの割合が正味の資産、すなわち住民の持分であるかを示しています。逆に、その反対（逆のものは負債比率、すなわち資産のうち、どの程度が借入金に依存しているかです。民間では企業の財務能力の判断のために最も重視される比率です。利益の獲得が目的である民間企業では、借入金を将来利益での返済を予定するので、この比率は低いのですが（トヨタ自動車で32%くらい）、地公体では7割が標準です。地公体の場合は、借入金の返済原資は将来の税収であり、その税収のうち減価償却引当として内部保留される資金と、費用支出の残額しかないので借入の比率が高いと財政不安となります。

### ②社会資本形成の世代間負担比率

12.41%

社会資本形成の世代間負担比率＝(地方債残高＋未払金)／(公共資産＋投資等)

上記と同様のことを総資産にかえて、有形固定資産に対する比率で検討します。比率が低ければ、過去の世代が有形固定資産の形成コストを負担していることとなります。反対に高ければ、将来世代がそのコストを負担しなければならないことを意味します。将来の世代もこの有形固定資産を利用するのであるから、負担するのは当然であるという考えもありますが、社会資本負担は常に拡大せねばならず（例：下水道）、過去の形成資本への負担は一定限度を超えてはなりません。



## ■ 発生主義の観点からの自治体経営分析

### ③実質純資産比率

68.55%

(純資産合計－インフラ資産) / (総資産合計－インフラ資産)

インフラ資産とは、道路・河川の様にサービスの源泉となっていますが、経済的取引にはなじまない資産です。したがって、地公体の返済能力を厳密に検討するために、その資産を除いて、負債と比べねばなりません。この比率がマイナスになると負債の担保は事実上ないということになります。財務の安全性を直接表現する指標といえるでしょう。

### ④人口一人あたり資産額

14,995 (千円)

総資産 / 人口

これは資産の整備度を表します。1人あたり、どれだけの資産の整備が行われているかを意味しています。その絶対額でその検討が付きませんが、その中でも、公共資産の質は充分検討しなくてはならないので、金額だけでは正確な住民への貢献度を測ることはできません。さらに注意すべきは、他方での公債残高の問題です。公債をどんどん発行して社会資本を整備しておけば、その社会資本は正の遺産ではなく負の遺産でもあります。従って、ここでこそ「貸借」を一括してみれば「貸借対照表」が重要な意味を持つのです。

## ■ 発生主義の観点からの自治体経営分析

### ⑤人口一人当たり純経常費用

1,333 (千円)

#### 純経常費用／人口

これら2つは行政の本当の意味での効率性を表す重要な指標です。行政内容は、企業活動など、地公体によって差異はないので、その人口あたりコストを比較することは極めて大きな意義を持ちます。そして、このコストの中には、発生主義であるから、退職給付引当金や減価償却費など目にみえないコストも算入されているので、これまでよりずっと正確なコストなのです。ただ、規模のメリットにより大地公体の方が、1人当たりのコストは小さくなることは当然（効率性が高い）なので、同規模の都市間で比較する必要があります。

### ⑥受益者負担率

8.25%

#### 業務収益／経常費用

地公体の総費用のうち、サービスの受益者が直接的に負担するコストの事です。当然の事ながらそのコストの大半は税収でまかなわれますが、個別のサービスについては、受益者がどの程度負担しているかも重要です。もちろん、大学、病院、住宅等事業を手広く行っている地公体は、この数値が高くなる傾向があり、10%を超える地公体は、その原因を個別に検討する必要があります。

## 各種比率算定方法

純資産比率	純資産合計／資産合計
社会資本形成の世代間比率 (将来世代負担比率)	(公債＋公債(短期)＋未払金及び未払費用)／(非金融資産＋貸付金＋投資等)
実質純資産比率	(純資産合計－インフラ資産)／(総資産合計－インフラ資産)
人口一人当たり資産額	総資産／人口
人口一人当たり純行政コスト	純経常費用／人口
人口一人当たり人件費	人件費／人口
受益者負担比率	業務収益／経常費用
流動比率	(資金＋財政調整基金＋減債基金)／流動負債

## 住民等のニーズを踏まえた分析

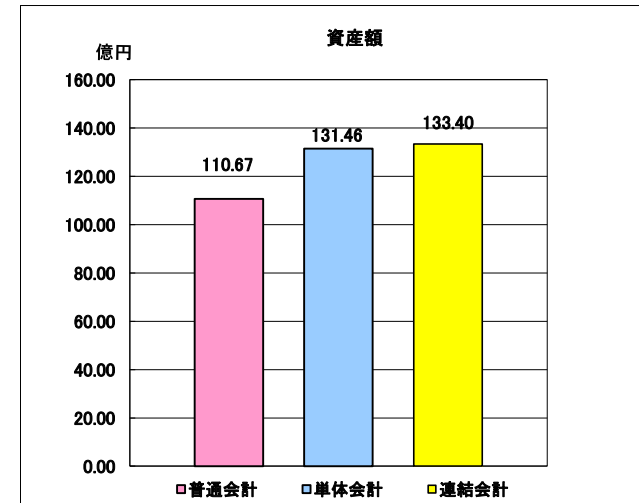
### (1) 資産形成度

ニーズ1：将来世代に残る資産はどれくらいあるのか

#### ①『資産額』（B/S）

(単位:億円、%)

	普通会計		単体会計		連結会計	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
金融資産	11.22	10.14%	12.53	9.53%	14.46	10.84%
資金	0.75	0.68%	1.52	1.15%	1.59	1.19%
未収金	1.30	1.17%	1.32	1.00%	1.33	1.00%
貸付金	0.00	0.00%	0.00	0.00%	0.00	0.00%
その他の債権	0.00	0.00%	0.00	0.00%	0.00	0.00%
貸倒引当金	▲ 0.00	0.00%	▲ 0.00	0.00%	▲ 0.01	-0.01%
有価証券	0.11	0.10%	0.13	0.10%	0.13	0.09%
出資金	0.24	0.22%	0.24	0.18%	0.24	0.18%
基金・積立金	8.77	7.93%	9.28	7.06%	11.11	8.33%
その他の投資	0.06	0.05%	0.06	0.04%	0.06	0.04%
非金融資産	99.44	89.86%	118.93	90.47%	118.95	89.16%
事業用資産	36.58	33.06%	45.88	34.90%	45.90	34.40%
インフラ資産	62.86	56.80%	73.05	55.57%	73.05	54.76%
資産合計	110.67	100.00%	131.46	100.00%	133.40	100.00%



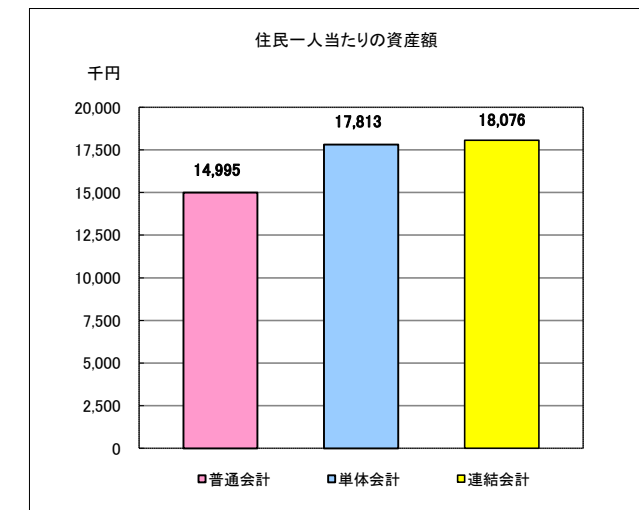
#### ②『住民一人当たり資産額』（B/S）

住民一人当たり資産額 = 資産合計 / 住民基本台帳人口

普通会計	=	11,066,527 千円	／	738 人	=	14,995 千円
単体会計	=	13,146,235 千円	／	738 人	=	17,813 千円
連結会計	=	13,340,414 千円	／	738 人	=	18,076 千円

(単位:千円)

	普通会計	単体会計	連結会計
住民一人当たりの資産額	14,995	17,813	18,076



## (2) 世代間公平性

ニーズ2：将来世代と現世代との負担の分担は適切か

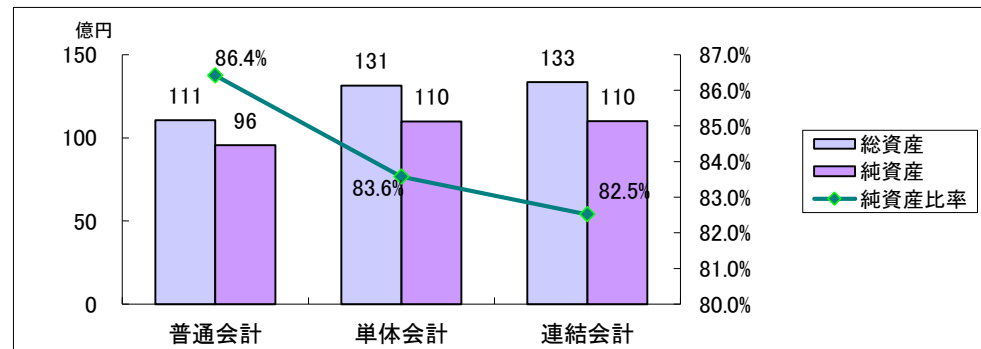
### ① 『純資産比率』 (B/S、NWM)

純資産比率 = 純資産総額 / 資産総額

普通会計	=	96 億円	／	111 億円	=	86.4%
単体会計	=	110 億円	／	131 億円	=	83.6%
連結会計	=	110 億円	／	133 億円	=	82.5%

(単位: 億円、%)

	普通会計	単体会計	連結会計
純資産比率	86.4%	83.6%	82.5%
総資産	111	131	133
純資産	96	110	110

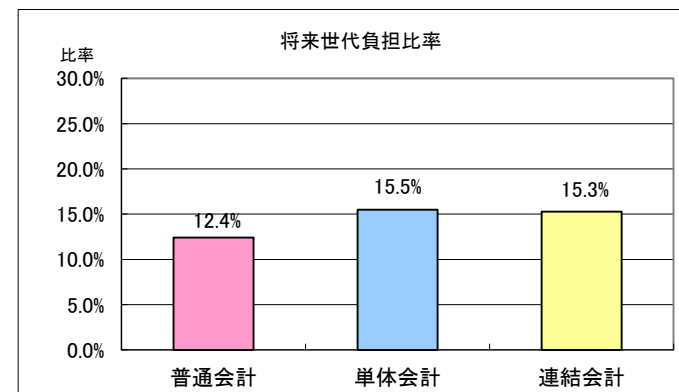


### ② 『社会資本等形成の世代間負担比率 (将来世代負担比率)』 (B/S)

社会資本等形成の世代間負担比率 (将来世代負担比率) = (地方債残高 + 未払金) / (公共資産 + 投資等)

(単位: 億円、%)

	普通会計	単体会計	連結会計
将来世代負担比率	12.4%	15.5%	15.3%
(地方債残高 + 未払金)	13	20	20
(公共資産合計 + 投資等)	109	129	130



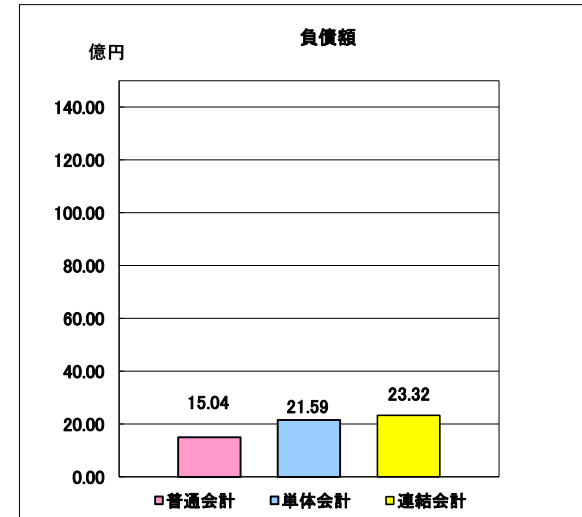
### (3) 持続可能性 (健全性)

#### ニーズ3：財政に持続可能性があるか (どれくらい借金があるのか)

##### ①『負債額』 (B/S)

(単位: 億円、%)

	普通会計		単体会計		連結会計	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
流動負債	1.31	8.71%	2.21	10.24%	2.21	9.49%
地方債(短期)	1.12	7.44%	1.92	8.87%	1.92	8.21%
賞与引当金	0.17	1.11%	0.27	1.26%	0.27	1.17%
その他	0.02	0.16%	0.02	0.11%	0.02	0.10%
固定負債	13.73	91.29%	19.38	89.76%	21.11	90.51%
地方債	12.33	81.98%	17.98	83.28%	17.98	77.10%
退職給付引当金	1.40	9.30%	1.40	6.48%	3.13	13.41%
その他	0.00	0.00%	0.00	0.00%	0.00	0.00%
負債合計	15.04	100.00%	21.59	100.00%	23.32	100.00%

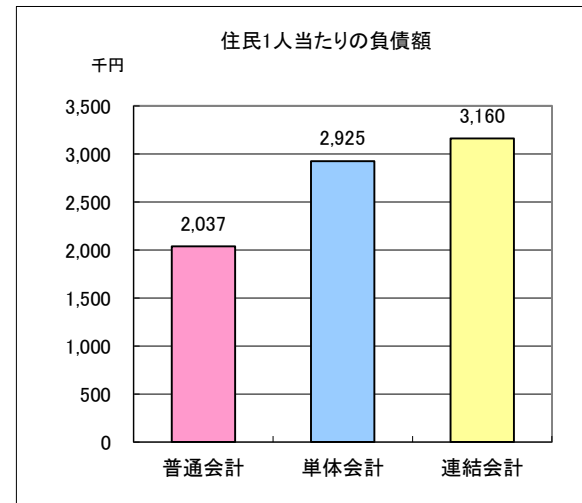


##### ②『住民一人当たり負債額』 (B/S)

住民一人当たり負債額 = 負債総額 / 住民基本台帳人口

普通会計	=	1,503,551 千円	／	738 人	=	2,037 千円
単体会計	=	2,158,982 千円	／	738 人	=	2,925 千円
連結会計	=	2,332,030 千円	／	738 人	=	3,160 千円

	普通会計	単体会計	連結会計	
住民1人当たりの負債額	2,037	2,925	3,160	(単位: 千円)
負債総額	1,503,551	2,158,982	2,332,030	(単位: 千円)
人口	738	738	738	(単位: 人)



#### (4) 効率性

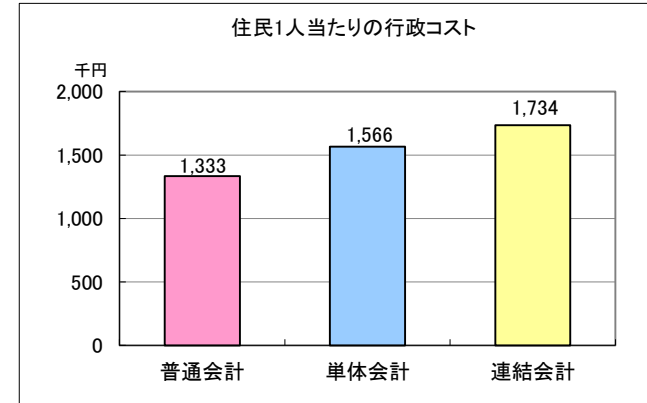
#### ニーズ4：行政サービスは効率的に提供されているか

##### ① 『住民一人当たり行政コスト』（P/L）

住民一人当たり行政コスト = 純経常費用（純経常行政コスト） / 住民基本台帳人口

普通会計	=	983,425 千円	/	738 人	=	1,333 千円
単体会計	=	1,155,523 千円	/	738 人	=	1,566 千円
連結会計	=	1,279,703 千円	/	738 人	=	1,734 千円

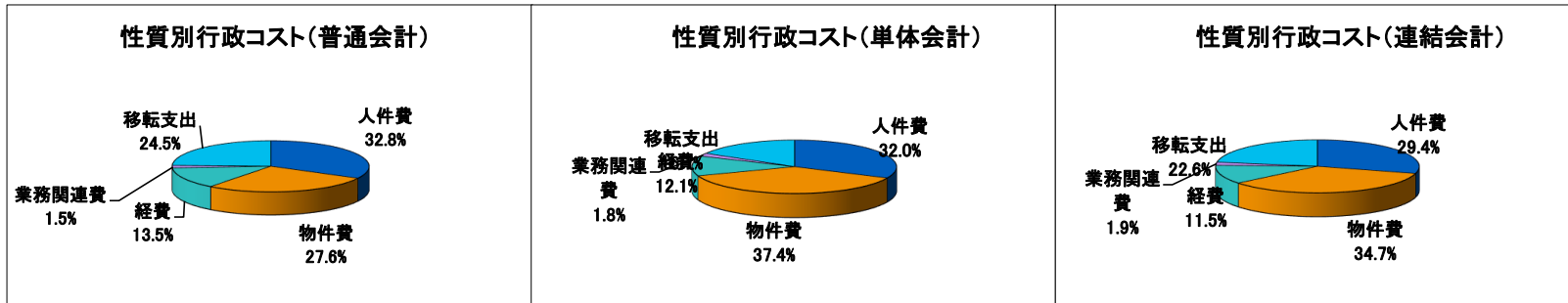
	普通会計	単体会計	連結会計	
住民1人当たりの行政コスト	1,333	1,566	1,734	(単位:千円)
純経常費用	983,425	1,155,523	1,279,703	(単位:千円)
人口	738	738	738	(単位:人)



##### ② 『性質別行政コスト』（P/L）

(単位:億円、%)

	普通会計		単体会計		連結会計	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
人件費	4	32.80%	6	31.97%	6	29.38%
物件費	3	27.59%	7	37.43%	7	34.70%
経費	1	13.52%	2	12.10%	2	11.47%
業務関連費	0	1.55%	0	1.81%	0	1.89%
移転支出	3	24.53%	3	16.69%	4	22.55%
合計	11	100%	17	100%	19	100%



# 新公会計財務諸表のご説明

## 単体会計 平成27年度

単位(千円)

貸借対照表		金額	負債の部		金額
資産の部			負債の部		
1.金融資産	9.5%	1,253,375	1.流動負債	10.2%	221,045
(1)資金		151,571	(1)地方債(短期)		191,564
(2)未収金		132,060	(2)賞与引当金		27,130
(3)貸付金		0	(3)その他		2,350
(4)その他債権		0	2.非流動負債	89.8%	1,937,937
(5)貸倒引当金		-438	(1)地方債		1,798,042
(6)有価証券		12,563	(2)退職給付引当金		139,895
(7)出資金		24,198	(3)その他		0
(8)基金・積立金		927,531			
(9)その他の投資		5,889			
2.非金融資産	90.5%	11,892,860	<b>負債合計</b>	<b>16.4%</b>	<b>2,158,982</b>
(1)事業用資産		4,587,692	純資産の部		
(2)インフラ資産		7,305,168	<b>純資産合計</b>	<b>83.6%</b>	<b>10,987,253</b>
<b>資産合計</b>	<b>100.0%</b>	<b>13,146,235</b>	<b>負債及び純資産合計</b>	<b>100.0%</b>	<b>13,146,235</b>

純資産変動計算書		金額
期首純資産残高		10,712,481
純経常行政費用		-1,155,523
直接資本減耗(インフラ資産)		-311,062
財源調達		1,739,573
税収		95,417
社会保険料		15,745
移転収入(他会計移転収入)		0
移転収入(補助金等)		1,591,553
移転収入(その他移転収入)		36,858
その他純資産の増減		1,784
<b>期末純資産残高</b>		<b>10,987,253</b>
		274,772

行政コスト計算書		金額
経常費用		1,743,464
1.人件費	32.0%	557,442
(1)議員歳費・職員給与		377,069
(2)その他		180,373
2.物件費・経費	49.5%	863,530
(1)消耗品費		134,241
(2)減価償却費(事業用資産)		291,813
(3)維持補修費		179,066
(4)その他物件費		47,487
(5)委託費		145,559
(6)その他経費		65,364
3.業務関連費用	1.8%	31,522
(1)公債費(利払分)		24,417
(2)その他の業務関連費用等		7,104
4.移転支出	16.7%	290,970
(1)他会計への移転支出		0
(2)補助金等移転支出		229,578
(3)社会保障関連費用等移転支出		31,351
(4)その他の移転支出		30,040
経常収益		587,940
1.業務収益		565,794
2.業務関連収益		22,146
純経常行政コスト		
(経常費用 - 経常収益)		1,155,523

(1)赤線  
純資産の増減を表します。  
・緑線は減った純資産  
・財源調達は入った純資産  
・その他は資産の目減り分

(2)青線  
資金の増減を表します。  
(現在の決算書と同じ)

赤青が集まって  
貸借対照表を作ります。

資金収支計算書		金額
1.経常的収支		862,168
経常的支出		1,484,201
経常的収入		2,346,369
2.資本的収支		-704,851
資本的支出		780,883
資本的収入		76,032
3.財務的収支		-87,530
財務的支出		229,234
財務的収入		141,704
当期収支		69,787
期首資金残高		81,783
<b>期末資金残高</b>		<b>151,571</b>

※表示金額は千円単位となっており、四捨五入のため合計金額に齟齬が生じます。



# 新公会計財務諸表のご説明

## 連結会計 平成27年度

単位(千円)

貸借対照表		金額	負債の部		金額
資産の部			負債の部		
1.金融資産	10.8%	1,445,598	1.流動負債	9.5%	221,248
(1)資金		159,373	(1)地方債(短期)		191,564
(2)未収金		133,244	(2)賞与引当金		27,309
(3)貸付金		104	(3)その他		2,375
(4)その他債権		0	2.非流動負債	90.5%	2,110,783
(5)貸倒引当金		-765	(1)地方債		1,798,042
(6)有価証券		12,564	(2)退職給付引当金		312,719
(7)出資金		24,198	(3)その他		22
(8)基金・積立金		1,110,990			
(9)その他の投資		5,889			
2.非金融資産	89.2%	11,894,816	<b>負債合計</b>	<b>17.5%</b>	<b>2,332,030</b>
(1)事業用資産		4,589,648	純資産の部		
(2)インフラ資産		7,305,168	<b>純資産合計</b>	<b>82.5%</b>	<b>11,008,383</b>
<b>資産合計</b>	<b>100.0%</b>	<b>13,340,414</b>	<b>負債及び純資産合計</b>	<b>100.0%</b>	<b>13,340,414</b>

純資産変動計算書		金額
期首純資産残高		10,737,394
純経常行政費用		-1,279,703
直接資本減耗(インフラ資産)		-311,062
財源調達		1,864,324
税収		95,417
社会保険料		20,574
移転収入(他会計移転収入)		259
移転収入(補助金等)		1,663,758
移転収入(その他移転収入)		84,316
その他純資産の増減		-2,570
<b>期末純資産残高</b>		<b>11,008,383</b>
		270,989

行政コスト計算書		金額
経常費用		1,883,839
1.人件費	29.4%	553,511
(1)議員歳費・職員給与		378,915
(2)その他		174,597
2.物件費・経費	46.2%	869,792
(1)消耗品費		134,388
(2)減価償却費(事業用資産)		292,365
(3)維持補修費		179,068
(4)その他物件費		47,933
(5)委託費		148,984
(6)その他経費		67,054
3.業務関連費用	1.9%	35,670
(1)公債費(利払分)		24,417
(2)その他の業務関連費用等		11,252
4.移転支出	22.6%	424,867
(1)他会計への移転支出		702
(2)補助金等移転支出		362,071
(3)社会保障関連費用等移転支出		31,351
(4)その他の移転支出		30,743
経常収益		604,136
1.業務収益		581,268
2.業務関連収益		22,868
純経常行政コスト		
(経常費用 - 経常収益)		1,279,703

(1)赤線  
純資産の増減を表します。  
・緑線は減った純資産  
・財源調達は入った純資産  
・その他は資産の目減り分

(2)青線  
資金の増減を表します。  
(現在の決算書と同じ)

赤青が集まって  
貸借対照表を作ります。

資金収支計算書		金額
1.経常的収支		881,225
経常的支出		1,605,710
経常的収入		2,486,934
2.資本的収支		-722,866
資本的支出		801,111
資本的収入		78,245
3.財務的収支		-88,887
財務的支出		230,591
財務的収入		141,704
当期収支		69,471
期首資金残高		89,902
<b>期末資金残高</b>		<b>159,373</b>

※表示金額は千円単位となっており、四捨五入のため合計金額に齟齬が生じます。